

## 【自由投稿】

### 30周年記念品を会員への配布から、外部団体への寄付

幻の30周年記念式典 令和2年4月14日

瑞穂鯨城会 会長 松井 正幸

瑞穂鯨城会 30周年記念事業の一環として、皆様に記念品の配布を計画しておりましたが、このたびの新型コロナウイルスの感染拡大防止に関わる緊急事態宣言の発出に伴い、下記の理由により、会員への配布を取り止め、外部団体への寄付に切り替えました。

理由

- ①緊急事態宣言の発出に伴い、在宅サービスセンターが閉鎖され、配布仕分け作業ができなくなった。
- ②この環境下において、私たちの会の中から感染者を出させないことを第1義におき、高齢な会員(ブロック委員)を集めたり、配布作業をさせない。
- ③記念品製作団体から、直接会員に宅急便で、配送することを検討しましたが、配送費用が過大である。
- ④記念品の主旨から、福祉施設など外部団体への寄付が妥当と考えました。

これらの、一連の経緯につきましては、状況が目まぐるしく変わる中で対応してまいりました。

詳細は以下の如くですが、これを皆さんに知っていただくために、瑞穂鯨城会便り 86号「30周年記念特集号」の付録として紹介いたします。

#### 1. 記念品の配布について

- (1)瑞穂鯨城会が令和元年に30周年を迎えるにあたり、30周年を祝う記念事業を実施することにしました。実施事業:①記念式典と懇親会の実施、②会員に対する記念品の配布。  
記念式典と懇親会、並びに記念品の配布は令和2年4月14日の総会に併せて実施する事にしました。記念品の配布は、この記念行事を会員の全員で喜びを分かち合おうとするものでした。
- (2)配布個数:合計 240個 (令和2年度時点の在籍会員数:200名分+記念事業に協力されたの参加者分:40名分)

#### 2. 会員への配布予定から、外部団体への寄付に至った経緯

- (1)令和2年度総会・30周年記念式典・懇親会の中止  
3月13日の臨時役員会において、コロナウイルス感染拡大の影響により、4月14日(火)開催予定の「令和2年度総会・30周年記念式典・懇親会」を中止致しました。このころ、高年大学の卒業式の中止、入学式の延期、並びに高年大学のクラブ/OB会においても総会の中止が相次いでいました。  
総会関連資料・30周年記念誌について、会員には後日(4月21日)配布することにしました。
- (2)総会関連資料・30周年記念誌の配布中止。  
4月3日に臨時役員会を開催しましたが、この時点でコロナウイルス感染拡大が益々激しくなり、予定していた「総会関連資料・30周年記念誌」の資料配列/製本/袋詰めは、密閉/密集/密接作業であり、これを延期することにしました。
- (3)30周年記念品の配布と年会費の徴収の計画  
4月3日の臨時役員会を開催した時点で、30周年記念品がすでに半分以上製作されていることが判明しました。これについては、賞味期限のあるお菓子であること、並びに単体品の扱いであり、密閉/密集/密接作業はないため、会員へ配布することとしました。  
実施に当たっては、ブロック委員による会員への配布と年会費の徴収を併せて行うことにしました。この為、前年度のブロック委員に対しての委嘱継承と作業実施のお願いを致しました。
- (4)ブロック委員による30周年記念品の配布と年会費の徴収の中止  
4月10日に愛知県がコロナウイルス感染拡大防止に関わる緊急事態宣言を発出しました。  
これに対応して、名古屋市の各種施設の閉鎖が実施され、在宅サービスセンターについても4月11日~4月末の間閉鎖されることになりました。これに伴い、配布仕分け作業の場がなくなってしまいました。
- (5)30周年記念品の配布を記念品製作団体から、宅急便で会員に直接配送することを検討しました。しかしながら、配送費用が過大なものになることが判明しました。
- (6)メールを活用して役員間の情報収集と検討を進め、「記念品の配布を止め、福祉団体等に寄付する」ことを決定しました。この決定にあたり、30周年記念行事実行委員会の白木会長に打診して、ご了承を得ました。
- (7)4月14日に寄付団体を「子どもの食堂:瑞穂、昭和、千種」を選択・決定し、4月17日に製作団体から寄付対象団体に引き渡しました。

#### 3. 記念品の仕様と製作者

##### (1)仕様

- ①内容:3種類のクッキーが箱の中に収められている。(右の写真はその一つ)
- ②記念品の数量:合計240個(箱)



## (2) 製作者:

社会福祉法人 名古屋 手をつなぐ育成会 桜山通勤寮  
(知的障害者通勤寮:サポートセンター being 桜山)

- ① 法人理念:いろいろな原因から知的に障害のある人たちが、社会の構成員として「地域での普通の暮らし」が送れるよう、時代のニーズに応える「よりよい福祉サービスの確立」と「地域の人々のあたたかい理解と協力」を願って活動している。
- ② 作業・活動内容
  - ・自己決定／自立への支援(行事)
  - ・社会参加に向けての支援事業(行事)



○ 選択に当たって、30周年記念行事実行委員会は、この団体の理念／活動が鯨城会の期待するところと合致していると判断しました。

## 4. 寄付を受ける団体／施設

### (1) 子ども食堂

子ども食堂は、困難を抱える子どもたちを含め、様々な子どもたちに対し、食事の提供を通じて、食育 や貴重な団らん、地域における居場所確保の機会を提供している。子どもの食育や居場所づくりにとどまらず、それを契機として、高齢者や障害者を含む地域住民の交流拠点に発展し、地域共生社会の実現に向けて大きな役割を果たしている。

○ その理念、活動内容が鯨城会の期待するところとして合致しているため、寄付先として、子ども食堂を選択しました。  
(ほかにも多くの団体／施設がありますが、時間的な制約等を考え、これが最適なものと考え決定しました。)

### (2) 寄付先: 拠点—————次の3拠点を話しを進め、寄付拠点として適切であると判断いたしました。

- ① 瑞穂 みんなの子ども食堂(瑞穂区高田町 1-8-1)・連絡窓口:久田くにひろ様 電話 090-2252-2755
- ② 昭和 つなぐ子ども食堂(・昭和三若柳町 3-7)・連絡窓口:瑞穂 みんなの子ども食堂と同じ
- ③ ちくさ 子ども食堂(千種区春岡町 1-4-13)・連絡窓口:伊藤正美様 副代表 電話:090-8130-4285

### (3) 寄付数と届け日

・合計240箱を上記3拠点到3等分し、手をつなぐ育成会と3拠点の連絡窓口担当者により4/17に届けて頂きました。

### (4) 子ども食堂の開催



瑞穂 みんなの子供食堂 4/19



昭和 つなぐ子ども食堂 5/中旬



ちくさ 子ども食堂 4/26

コロナウイルスの感染拡大の緊急事態宣言に伴う子ども食堂の活動の自粛の中、3拠点において食品を無償配布する「フードパントリー」形式にて開催された。

## 5. 残ったもの

皮肉にも、コロナウイルスの感染拡大の厳しい状況下において、結果から見ると以下の形が残りました。

「瑞穂鯨城会(30周年記念行事実行委員会)は、30周年記念の年にあたり、その行事の一環として、記念品を考え、これを社会福祉法人:名古屋 手をつなぐ育成会から購入し、福祉団体:子どもの食堂に寄付をした。」

あと10年たった時、後輩たちが先輩方は素晴らしい事を行ったなと思ってくれれば幸いです。